

2006九州PCカンファレンス in 熊本大学

中野 裕司, 入口 紀男
熊本大学総合情報基盤センター

2007年8月

概要

コンピュータ利用教育協議会(CIEC)の地方大会である「2006九州PCカンファレンス in 熊本大学」を、当センターは実行委員会の中心的メンバーとして、開催に加わった。WebのCMS(Plone)による構築、大会プログラムの企画、運営等を積極的に行い、2006年12月2~3日、盛況のうちに開催された。

keyword: CIEC, eラーニング, コンピュータ利用教育協議会, 九州

1 はじめに

コンピュータ利用教育協議会(CIEC)の地方大会である「2006九州PCカンファレンス in 熊本大学」[1]が開催された。当センターは実行委員会の中心的メンバーとして、開催に加わったので報告する。

2 開催主旨

開催主旨を1に示す。熊本大学のeラーニングの売りの中から、eラーニングでeラーニング専門家を養成する大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻[2, 3, 4, 5]の特色であるインストラクショナルデザインとSOSEKI[6]にはじまる全学的な取組[7, 8, 9]をテーマに選んだ。

3 実行委員会

実行委員長を、当センター長宇佐川が勤め、当センターから、実行委員として、入口、中野が参加した。熊本大学では、その他、2006年度総合情報基盤センターの兼務教員でもある大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻の北村氏、教育機能開発総合研究センターの安浪氏、生活協同組合の安田、野口、平澤氏が実行委員を勤めた。その他の実行委員は、鹿児島大学板倉氏、全国大学生協から、赤木、福島、川野氏であった。

「eラーニング~デザインから”全学化”まで~」

PCカンファレンスは、情報分野の専門家はもちろん、小中高の各学校の教職員、学生・院生、企業等のあらゆる分野の人々が、コンピュータ・インターネットを利用した教育・研究について交流するための集まりです。幅広く、初等教育から生涯教育までを視野に入れ、先進事例にも関心を払い、たえず新鮮な刺激を取り入れた活動を行っています。PCカンファレンスでは、実践研究・事例の発表あるいは課題別テーマに基づく参加者相互の情報交換などを行ないます。コンピュータを利用した教育と言え、eラーニングがすぐに思い浮かびます。各地では多くの実践、試行錯誤が行われていることでしょう。そして、教材をどのように設計したら、より効果的なのか？eラーニングを学内に広め、定着させるにはどうしたらよいのか？といった点は、この分野に携わる方々の共通する関心ではないでしょうか。今回のPCカンファレンス九州 in 熊本大学では、eラーニングや、その背骨となるインストラクショナルデザインに注目し、「eラーニング~デザインから”全学化”まで~」をテーマに開催します。

図1: 開催主旨

4 Web ページ運営

図2に示すような、Webページの導入、管理、運営は当センターで行った。CMS(Content Management System)の1つである、Plone[10]の導入を行い、その上に構築した[1]。



図 2: 2006 九州 PC カンファレンス in 熊本大学 トップページ

5 プログラム

5.1 第1日目プログラム

第1日目は、12月2日(土)の13:30~18:00にかけて、熊本大学工学部百周年記念館を会場に、全体会が行われた。また、ITフェアが、12:00~18:00に併設され、18:00以降は生協学生会館食堂で懇親会が19:30まで開催された。

13:30から宇佐川実行委員長の開会挨拶が行われた。あいにく、宇佐川実行委員長は海外出張中で出席できなかったため、ICT時代のカンファレンスにふさわしくビデオ出演となった。

基調講演は、13:45~15:00にかけて、熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻長である鈴木克明教授の「インストラクショナルデザインとeラーニング」と題した講演で、大変タイムリーかつ興味深いテーマでもあり、充実した内容であった。

続いて、15:15~17:00にかけて、教授システム学専攻の北村士朗氏をコーディネータとし、「eラーニングの現場・現状・現実」という題材で、西嶋愉一氏(金沢大学外国語教育研究センター)、鍵山茂徳氏(鹿児島大学学術情報基盤センター)、太田浩樹氏(熊本工業高等学校)、右田雅裕氏(熊本大学総合情報基盤センター)

をパネラーとした、パネルディスカッションが開催された。いずれも、eラーニングの現場で活躍されている方々で、現実的で有意義なディスカッションが展開された。

5.2 第2日目プログラム

第2日目は、大学教育機能開発総合研究センターに会場を移し、12月3日(金)9:30~11:35にかけて、4つの分科会が開催された。

分科会1では、板倉隆夫(鹿児島大学)をコーディネータとした「eラーニング全学化の現状と課題」と題したシンポジウムが開催され、パネラーとして、鍵山茂徳氏(鹿児島大学)、穂屋下茂氏(佐賀大学)、大園修一氏(九州産業大学)、中野裕司(熊本大学)が参加し、各大学のeラーニング全学化の現状と課題について報告し、議論が行われた。

分科会2~4では、本カンファレンスの主旨に沿った教育実践のレポートや研究報告が、自由テーマで開催され、各々の会場で、有意義な講演、情報交換、議論がされた。

6 まとめ

以上、コンピュータ利用教育協議会 (CIEC) の地方大会である「2006 九州 PC カンファレンス in 熊本大学」[1] の開催に関して、その準備段階から、終了までの概要を報告した。

参考文献

- [1] 2006九州PCカンファレンス in 熊本大学 Web ページ：
<http://pcc.cc.kumamoto-u.ac.jp/pcc1>
- [2] 熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻,
<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>
- [3] 宇佐川, 中野, 大森: 「インターネット時代を切り拓く大学院-熊本大学「教授システム学専攻」平成18年設置予定-」情報処理教育研究会講演論文集, pp.iv (2005).
- [4] 大森他: 「インターネット時代の教育を切り拓く大学院を目指して-インストラクショナル・デザインによるeラーニング専門家養成-」, 大学教育研究フォーラム発表論文集, pp.48-49 (2006).
- [5] 鈴木: 「教授システム学専攻大学院先進事例のWeb調査」, 教育システム情報学会第31回全国大会講演論文集, pp.201-202 (2006).
- [6] 杉谷: 「熊本大学学務情報システム-SOSEKI-」, 学術情報処理研究, No. 3, pp.51-52, (1999)
- [7] 喜多・宇佐川・杉谷・中野・松葉・右田・武藏・入口・辻・島本・木田・秋山: 「全学部の学生全員に一定レベルの修得を保證する情報基礎教育体制」, 電気学会教育フロンティア研究会 FIE03-25, (2003)
- [8] 杉谷・宇佐川・喜多・中野・松葉・右田・武藏・入口・辻・島本・木田・秋山: 「全学部学生に統一に行う情報基礎教育体制」, 情報処理教育研究会論文集, pp.251-252, (2003)
- [9] 中野・喜多・杉谷・松葉・右田・武藏・入口・太田・平・辻・島本・木田・宇佐川: 「WebCT, 学務情報システム SOSEKI, 教育用 PC システムのデータ同期」, 第2回 WebCT 研究会予稿集, pp.3-8, (2004).
- [10] Plone home : <http://plone.org/>